

小規模多機能型居宅介護「令和4年度サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 コスモス	代表者	内藤 俊朗	法人・事業所の特徴	当施設のある上津地区は出雲市の南部、中山間地域にあり人口は約1200、この地区で唯一の福祉施設として開所12年が経過した。利用者は地元住民が過半数、例年桜まつり、納涼祭などの地区の行事に招待されたり、小学生、幼稚園児を招いたりと交流を深めてきたが、コロナの影響による交流制限が続く中、地域密着型としては如何に情報発信していくかが問われるところであり、運営推進会議等の場を通じて地元の各組織と交流を深めている。新しい生活様式の下で地域福祉とはどうあるべきか恵まれた自然環境を最大限に生かした特色あるサービスを職員共通のテーマとして取り組んでいる。
事業所名	小規模多機能ホーム ハッピーハウス	管理者	尾上 由紀		

参加者	利用者家族	自治協会長	コミュニティ長	民生委員長	慶人会長	社会福祉協議会長	市役所員	地域包括支援センター	事業者	合計
	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	4人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ◇項目毎の改善計画を毎月振り返り評価を継続する。 ◇情報共有とは何かを改めて考えながら項目毎の改善計画に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆改善計画への取り組みを振り返り、評価に対して職員全員が意識を持って取り組んだ。 ◆職員間のコミュニケーションを取る事が情報共有のスタートと認識し、改善計画に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇職員それぞれの考え方や思いを共有し理解して利用者へ接して欲しい。 ◇ミーティングが不満の捌け口だけに終わらないで、前向きな意見交換となる様にして下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自己評価を通して目標の方向性をしっかりと意識して、利用者への支援、地域との関わり、職員間の連携が向上するように、積極的に業務に取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ◇感染対策や衛生環境を明確に伝えて短時間からでも安心して地域の方達と交流できるように提案してみる。 ◇事業所はスペースの余裕がないが、年に一度は工夫しながら事業所内で会議が行えるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆感染対策を取った上で短時間の地域交流を行った。 ◆積極的な交流は出来なかった。 ◆事業所内での会議は場所の確保も難しい上、感染状況が拡大している中で行う事は出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自らも地域資源であることを理解して発信続けて貰いたい。 ◇コロナ禍において運営推進会議が書面で行われる事も多いが別会場である利点として集会形式が可能で、また集まって話し合うことで理解も深まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の方々が訪れた時に不快な思いをされないよう整理整頓を心掛け利用者の安全に配慮した居心地の良い施設となるように環境整備する。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ◇小規模多機能の特性や事業所の活動状況を具体的に知って貰えるような内容を発信する。 ◇広報紙の発行回数を増やす努力をする ◇パンフレットの活用を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆広報紙により小規模多機能の特性や活動状況を発信した。現在の環境下では直接活動内容を伝える手段が少なくホームページSNS等を活用した発信に取り組めると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇活動の制限があり出掛ける事が減っているのは寂しい。上津地区にも良い所がたくさんあるので出掛けてみて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域機関や団体の活動や行事等を把握して、機会を見つけて積極的に参加する。 ◆個人情報の取り扱いに注意しながらSNS等を活用して施設をもっと広く地域の方に知って貰う。

<p>D. 地域に向いて利用者の暮らしを支える取組み</p>	<p>◇施設の事や将来の暮らしの事などより広く理解して頂く為に、感染対策や衛生環境を明確に伝えた上で平時における随時見学の受入れや交流が行えるよう、様々な地域事業の代表の方と相談していく。</p>	<p>◆地域に向いた交流は難しいが感染対策を行って、随時見学が可能な体制を整えている。 ◆感染対策を講じながら見学や体験利用の受入れを行った。</p>	<p>◇交流も制限され利用者の方も気分転換の機会が少ないと思う。外出するのも家族では出来ないところを補ってあげると良いと思う。近くでも、短時間でも、車から降りなくても良いから取り入れてみて欲しい。</p>	<p>◆コロナ禍により計画通りにいかない点が多くあったが収束次第実行に繋げ地域からの意見・提案も取り入れていきたい。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>◇運営推進会議で頂いた意見は職員会で話し合い運営に反映していく。 ◇困り事や気掛かりな事をまとめて運営推進会議に図って貰う。 ◇会社運営に関してもできるだけ開示して意見を頂くよう努める。</p>	<p>◆会議録も各自で確認しどのような意見があったのかを把握、運営に活かせる事はないか話合った。</p>	<p>◇お便りの発行を2か月毎の運営推進会議に併せて発行されるとより分かりやすい。</p>	<p>◆広報紙の発行を2か月毎に増やし地域の更なる理解に繋げたい。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>◇感染拡大防止体制や災害対策を検討して業務を継続して行っていく計画を策定して利用者・職員の不安を払拭する。</p>	<p>◆令和3年水防法・土砂災害防止法改正に伴い災害対象地域となり、防災体制確立が予想される場合の避難確保計画について報告した。 ◆避難訓練を実施して体制・対策は検討しているが、あらゆる災害を想定した訓練等は行えてなくて不安の払拭出来たか分からない。</p>	<p>◇避難訓練は火災想定訓練後に地震や津波避難の講習をされた。「百考は一行に如かず」</p>	<p>◆避難訓練の回数を重ねるにつれ課題も明確化されて来ており、年2回の訓練だけで対応が遅れてしまわない様にあらゆる災害時の対応は毎月の職員会の項目に取り上げ、その中から具体的な訓練を実行する。</p>

